



よこすか海洋シンポジウム 2021 (第23回)

テーマ：「横須賀と東京湾の交通安全

浦賀燈明堂から観音埼レーダー施設まで」



浦賀燈明堂



観音埼灯台



東京湾海上交通センター運用室

10月31日(日)講堂において、よこすか市民会議が主催するシンポジウムに協賛し、3つの講演が行われました。

まず、郷土史家の山本氏が、「浦賀燈明台から観音埼灯台へ」との題で、江戸幕府により東京湾の要衝に建設されたわが国最初の灯台（燈明堂）と、その任務を現在の観音埼灯台に譲るまでの歴史について解説されました。

続いて、海保三管本部交通部長の辰巳屋氏が「起工153年を迎えた観音埼灯台と日本の灯台」との題で、日本を代表する観音埼灯台の歩みと日本の灯台の現状について解説され、東京湾海上交通センター長の稲田氏が「東京湾海上交通センターと観音埼灯台」との題で、東京湾の航行船舶の安全を確保する「守護神」としての同センターの役割などについて解説されました。

コロナ禍で1年半ぶりの開催でしたが約120名の方が参加されました。横須賀市民にとっては見慣れた観音埼灯台ですが、改めて東京湾の要衝に整備された灯台の歴史とともに、世界有数の船舶が輻輳する海域における安全運航のための対策等について詳しく伺うことができ有意義な時間を過ごすことができました。質疑では灯台の構造や燃料、船舶の安全運航支援要領等について多くの質問が有り、参加した皆さんの関心の高さが伺えました。

最後には、三笠保存会が記念艦「三笠」について紹介を行いました。

